

Title	<大會抄録>ガズナ朝のナディーム
Author(s)	稲葉, 穰
Citation	東洋史研究 (1993), 52(3): 520-520
Issue Date	1993-12-31
URL	http://dx.doi.org/10.14989/154451
Right	
Type	Journal Article
Textversion	publisher

ガズナ朝のナディーム

稻葉 穰

モンゴル時代以前の東方イスラーム世界に成立した諸王朝においては、その宮廷を構成する重要な要素として、ハージブやカーティブ(ダビール)と並んで、君主の側近くに仕え、酒宴や遊興の相手を務めるナディームと呼ばれる人々の存在を擧げることができるであろう。ハージブやカーティブがそれぞれ軍や官僚組織と直接結び附く存在として捉えられているのに比して、ナディームはこれまで主に、アダブ文學や統治論的著作から明らかになるいわば理想のナディーム像に基づきつつ、サロン文學や宮廷におけるアダブの問題といった、いわば文化面において語られてきている。しかしながら、一一世紀に書かれた史料である *Tarikh-i Bayhaqi* に見られる、ガズナ朝の第五代スルタン・マスウード時代(一〇三〇—一〇四〇年)のナディームの姿は、決して君主の遊び相手、飲み相手に留まるものではないように見える。彼らは様々な形で宮廷内部の権力争いに参加し、あるいはナディームから重要な役職に任じられる者もいるなど、その果たした役割も決して一様なものではなかった。今回の発表では、主に *Tarikh-i Bayhaqi* の記述に基づき、ガズナ朝の宮廷におけるナディームの實際の姿を明らかにすることを試みたい。それは、宮廷というものの實像を知る上での一つの手がかりとなるはずである。

ペルシア語譯『王叔和脉訣』とラシードウ・ウッディーン

羽田 亨 一

『歴史集成 *Jamé al-Tawārīx*』の編著者として有名なラシードウ・ウッディーン *Rasīd al-Dīn Fazl Allāh b. ʿEmād al-Dawle Abu al-ʿXeir al-Hamadani* (一二四七頃—一二三八) は中國文化に多大の関心を抱き、*ʿTanksūq-nāme-ye Il-xān dar fortune-solāme-Kazāi* イル汗に捧げる支那の諸科學に關する珍貴な書物と題する中國の脈學、鍼灸、本草、法制に關する漢籍四點のペルシア語譯本叢書の作成を企てた。そのうち現存するのは脈書の譯本のみである。

原典の本文(韻文)および注部分の書名、人名、醫學用語を、ペルシア語にない中國語音を表すための特別な符號を加えたペルシア字母で音寫した本書は、イラン文化、醫學史研究のみならず當時の中國語の音韻研究にとつても重要な資料であるが、未だ本格的な研究はなされていない。本書の内容の正確な理解のためにも、また本書が翻譯書である點から見ても、先ず中國語原典を確定する必要がある。

原典が *Wānk Sw-xw* (王叔和) の *“May krīne”* (『脉訣』) であることは本書の數か所に明記されている。しかし『王叔和脉訣』數種と照合したところ、その本文は何れも殆ど一致するが、註の部分が一致するものはなかった。武田科學振興財團「杏雨書屋」藏